

下痢

定義

水分の多い泥状もしくは液状の排便を 24 時間以内に 3 回以上認められる状態。

原因

1. 薬剤性：頻度が高いので念頭に置く。

緩下剤	過量投与による下痢は頻繁に見られる
抗菌薬	偽膜性腸炎、メチシリン耐性黄色ぶどう球菌腸炎、ペニシリン系やセフェム系などからの急性出血性大腸炎
がん治療薬	腸管粘膜障害を起こす薬剤、多くは抗がん剤（イリノテカン、フルオロウラシルなど）、分子標的薬（エルロチニブ、ゲフィチニブなど）
NSAIDs や消化性潰瘍治療薬	顕微鏡的腸炎を引き起こす

2. 感染性

ウイルス性	ノロウイルス、ロタウイルス、かぜ症候群など。冬期に多く見られ、しばしば悪心・嘔吐、腹痛を伴う
細菌性	カンピロバクター、サルモネラ、病原性大腸菌などが原因となり夏期に多く見られる

3. 病気やその治療によるもの

腫瘍性	カルチノイド、神経内分泌腫瘍など消化管ホルモン過剰産生
溢流性	直腸部での硬便や腫瘍により不完全閉塞を来すことで下痢便のみが少量ずつ排泄される
治療由来	大量の腸管切除や小腸ストーマ造設後の吸収低下によるもの 膵切除や胃切除後の消化不良によるもの 膵や大腸の手術での広範なリンパ郭清や神経叢損傷による難治性の下痢
その他	小腸直腸瘻が形成されると腸液による下痢が生じうる

治療

1. 原因に則した治療（表 1、2）
2. 下剤の中止
3. 脱水の予防・治療：水、電解質の補正や栄養の補給
4. 食事（低残渣・低脂肪食）の工夫：腸管を安静に保つ。原則として脂肪、組織の多い食物、刺激物やアルコールは禁止する。
5. 乳酸菌製剤の検討

表 1 下痢の原因と治療

下痢の原因		原因に対する治療	
薬 剤 性	緩下剤	薬剤中止	
	抗菌薬	薬剤中止と抗菌薬	
	がん治療薬	薬剤の減量や中止	
	NSAIDs や消化性潰瘍治療薬	薬剤の中止	
感 染 性	ウイルス性		
	細菌性	抗菌薬	
病 気 や 治 療	腫瘍性	手術	
	溢流性	浣腸、直腸刺激性下剤	
	治療由来	大量腸切除後、小腸ストーマ造設後	吸着薬、収斂薬
		膵切除後、胃切除後	食事療法、消化酵素薬
		大腸（広範郭清）術後、膵（神経叢）切除後	
その他	小腸直腸瘻	吸着薬	

表 2 対症療法に使用する薬剤

種類	特徴	薬剤（商品名）	常用量（1日量）
腸運動抑制薬	オピオイド受容体に作用、腸管の運動、分泌を抑制する	ロペラミド ※感染性下痢には禁忌	1～2mg/分 1～2
収斂薬	腸粘膜面を覆い、炎症、腸運動を抑制する	タンニン酸アルブミン原末	3～4g/分 3～4
吸着薬	細菌性毒素などを吸着し、腸を保護する	アドソルビン原末	3～10g/分 3～4
乳酸菌（整腸） 製剤	乳酸などによる腸管内毒素産生や吸収の抑制	ビオフィェルミン（R 散、R 錠、錠剤、配合散）	3～9g/分 3
		ビオスリー配合 OD 錠	3～6 錠/分 3
		ミヤBM細粒	1.5～3g/分 3
消化酵素薬	不足している膵消化酵素を補うことによって消化を吸収を助ける。	リパクレオン（カプセル、顆粒）	1800mg/分 3

看護

1. 水分・電解質の補給による脱水の予防

症状が強く、腸管の安静が必要な場合は絶食にして輸液管理を行う。経口摂取が可能な場合は、経口補水液やスポーツドリンクの摂取が望ましい。

2. 食事の工夫

食事は不溶性食物繊維や高脂肪食、牛乳、炭酸飲料、香辛料などの刺激物を避ける。便中の水分を吸収する作用のある水溶性食物繊維や乳酸菌・ビフィズス菌などのプロバイオティクスは摂取してよい。温かく消化のよいものをよく噛みゆっくりと摂取する。

3. 随伴症状に対する対応

安楽な体位を整え痛みの軽減を図るとともに、保温に努めるなど休息がとれるようにする。

4. スキンケア

失禁がある場合、下痢便の接触、皮膚の浸軟によって、失禁関連皮膚炎や褥瘡を引き起こすリスクがあるため、皮膚の観察、洗浄（頻回な洗浄は避ける）や保護、適切なオムツの選択なども合わせて行う。

〈参考文献〉

- ・浦部晶夫他(2016). 今日の治療薬 2016. 736-73, 南行堂.
- ・清水啓治, 柿元奈緒子(2022). おさまらない下痢. 緩和ケア, 32(suppl), 106-111.
- ・鈴木志津枝・内布敦子(編)(2013). 緩和・ターミナルケア看護論. 229-234, ヌーヴェルヒロカワ.
- ・向井直人(編)(2013). 看護過程に沿った対症看護. 149-160, 学研メディカル秀潤社.
- ・山里一志 (2020). 一見したところ「薬の副作用」と判断しがちだが、実はそうではないケース. 薬事, 62(9), 1754-1755.

北播磨総合医療センター 緩和ケア委員会 2017.2 作成
北播磨総合医療センター 緩和ケア委員会 2019.4 改訂
北播磨総合医療センター 緩和ケア委員会 2023.10 改訂